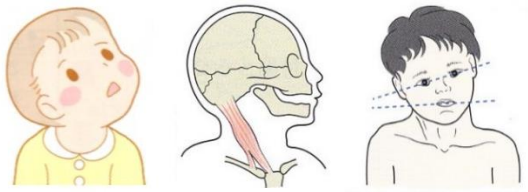
4. 注意すべき疾患（前編）

❶ 斜頸（筋性斜頸）

1-概要

●頭部が一側に傾き、同時に反対側に回旋する位置異常を呈する疾患。



特徴	●：➡　　など難産時の筋損傷が多い。 ●：➡　　に腫瘤が存在する。 ●通常３ヵ月で自然消退/多くは１歳までには自然治癒
治療	●6ヵ月経過しても残存する場合は、全身麻酔が可能な１歳以降を待ち観血療法を選択。後遺症：顔の非対称 ●禁忌：徒手整復

❷ 頸椎椎間板ヘルニア（CDH）

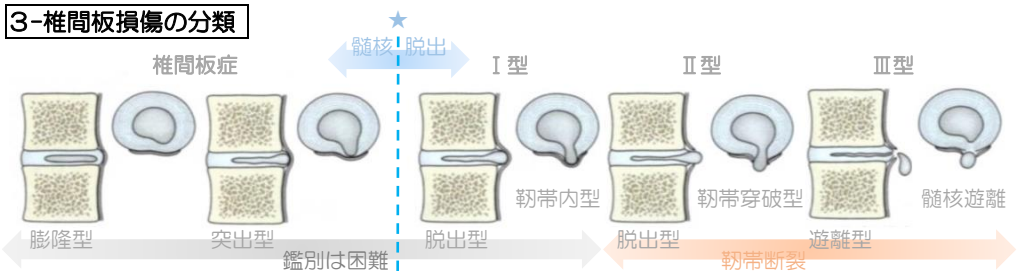
1-椎間板

2-症状

●30～50 代男性に好発。
多くは根症状を呈する。

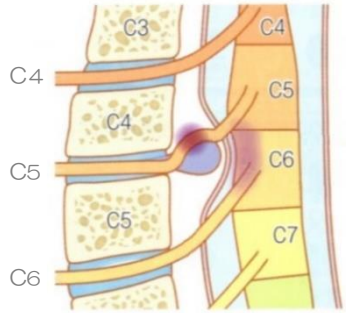
・後頸部痛
・可動域制限
・上肢放散痛

3-椎間板損傷の分類

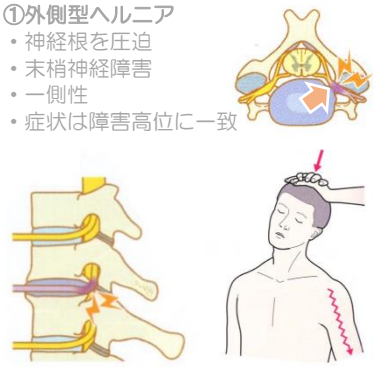


4-ヘルニア型別症状

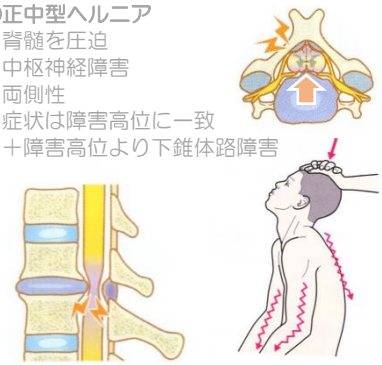
●脱出方向により外側型/正中型に分類



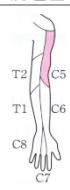
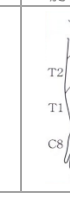
①外側型ヘルニア
・神経根を圧迫
・末梢神経障害
・一側性
・症状は障害高位に一致



②正中型ヘルニア
・背髄を圧迫
・中枢神経障害
・両側性
・症状は障害高位に一致
＋障害高位より下錐体路障害

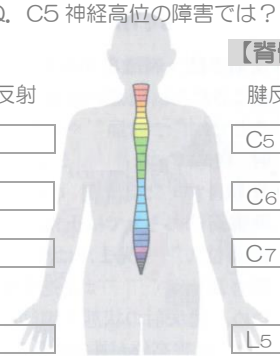


6-ヘルニア高位診断

ヘルニア高位					
	神経根	C4/5	C5/6	C6/7	C7/T1
	背髄症	C3/4	C4/5	C5/6	C6/7
障害神経		C5	C6	C7	C8
反射減弱		二頭筋	腕橈骨筋	三頭筋	—
筋力低下		肘屈曲	手背屈	肘伸展	指屈曲
知覚障害					

7-錐体路障害

Q. C5 神経高位の障害では？



【神経根症】

腱反射/病的反射

C5　　/
C6　　/
C7　　/
・
・
L5　　/

【背髄症】

腱反射/病的反射

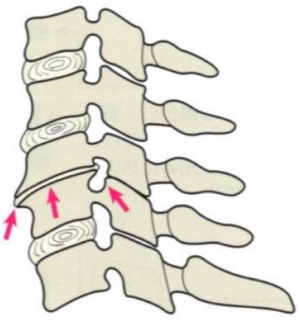
C5　　/
C6　　/
C7　　/
・
・
L5　　/

	神経根症（外側型ヘルニア）	背髄症（正中ヘルニア）
特徴	●退行性変性などで髄核が脱出したもの ●：➡　　代の：➡　　多い	●Ⅰ型と椎間板症の鑑別は困難 ●中～下位頸椎に好発する
症状	●障害高位に一致した症状がみられる ・一側性の症状 ・筋力低下 / 筋萎縮 ・しびれ感 / 感覚障害 ・腱反射の減弱 / 消失 ・病的反射 / 足クローヌスなし ●検査法：➡　（一側性のみ） ：➡　（背髄症含む）	●障害髄節高位に一致した両側性の症状 ・筋力：➡　腱反射：➡ ・手掌全体のしびれ・巧緻性運動障害 ●障害髄節より下の腱反射：➡ 病的反射：➡ ・手指の痙性麻痺（ミエロパチーハンド） ・下肢の痙性麻痺　・膀胱直腸障害 ・病的反射（ホフマン反射/足クローヌス）

❸ 頸椎症（頸椎ＯＡ）

１-概要

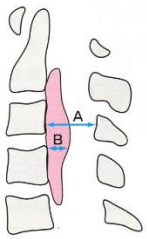
●頸椎構成体の退行性変性により症状をきたす疾患。
●中年以降の中～下位頸椎に好発。⇨神経根が障害される場合と
⇨背髄が障害される場合がある。



❹ 後縦靭帯骨化症（ＯＰＬＬ）

１-概要

●椎体後壁の後縦靭帯が骨化 / 肥厚した疾患。
中高年、特に 50 代男性に多い。



・背柱管内の背髄を圧迫し、占拠率４０%で背髄症状を発症する。
※占拠率＝A/B×100

❺ その他炎症性疾患

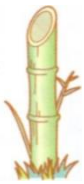
１-バルソニー病

●棘間靭帯の石灰化したもの。
病的意義は少ない。

２-強直性脊椎炎（AS）

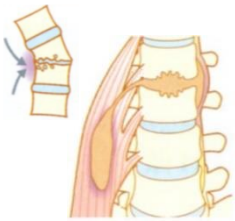
●10 代～30 代男性に発生する慢性関節炎。脊柱後弯。

banboo spine



３-脊椎カリエス

●結核菌による骨破壊
①冷膿瘍
②亀背　③背髄麻痺



４-砂時計腫

●癌の頸椎転移
背髄腫瘍が椎孔を通り外に出たもの。

頸椎症	特徴/好発	●加齢に伴う退行性変性疾患、椎間板症や椎間関節症を基盤に骨棘や石灰化を生じる。神経を圧迫した場合以下の分類になる。 ●50～60 代の男性に好発　●頸部痛、可動域制限を生じる。
	頚椎症性 神経根症	※頸椎椎間板ヘルニアの症状を参照
	頚椎症性 背髄症	
後縦靭帯骨化症	特徴	●50 代男性に多い　●転倒やムチ打ちで背髄損傷する可能性がある
	病態	●後縦靭帯が骨化し、狭窄率４０%をこえると背髄を圧迫する

ご清聴ありがとうございました。

第３３回　練習問題

問題１　先天性筋性斜頸で誤りはどれか
１．斜角筋に腫瘤を認める
２．生後３カ月で自然消退することが多く、１年以内に９割は自然治癒する
３．生後６か月経過で拘縮があれば、全身麻酔が可能な１歳以降に観血療法が必要となる
４．手技療法は不要である

問題２　頚椎椎間板ヘルニアで誤りはどれか
１．神経根の圧迫がある場合、片側性の上肢放散痛を認める
２．Ⅱ型（後縦靭帯穿破型）は椎間板症との鑑別が困難である
３．両側性の神経症状は脊髄の障害を疑う
４．神経根刺激テストが陽性となる

問題３　頚椎症の疾患名と特徴で誤りはどれか
１．頚椎症性神経根症――――― 一側性の放散痛が認められる
２．頚椎症性神経根症――――― 筋力低下と腱反射亢進が見られる
３．頚椎症性脊髄症――――――― 両側性の手掌のしびれや巧緻運動障害が認められる
４．頚椎症性脊髄症――――――― 悪化すると排泄や歩行が障害される

問題４　次の疾患と特徴の組み合わせで正しいものはどれか
１．頚椎椎間板ヘルニア――――― 変形性関節症
２．頚椎症性神経根症――――― 髄核の脱出
３．バルソニー病――――――― 椎間関節症
４．後縦靭帯骨化症――――――― 脊髄症状

問題５　５０歳男性、１年前より歩きにくさを感じ、階段も下りづらくなる。
１カ月前より両手にしびれを感じ、整骨院に来院した。
腕橈骨筋反射が減弱、上腕三頭筋反射は亢進した。膝蓋腱反射も亢進し、
足クローヌスが反応した。責任病巣はどれか。
１．C_5脊髄障害
２．C_6脊髄障害
３．C_7神経根障害
４．L_4神経根障害

※参考
❶斜頸　➡骨盤位分娩
➡胸鎖乳突筋

❷頚椎椎間板ヘルニア

C5	減弱/なし		C5	減弱/なし
C6	― /なし		C6	亢進/あり
C7	― /なし		C7	亢進/あり
L5	― /なし		L5	亢進/あり

➡30～50 代　➡男性

➡ジャクソンテスト
➡スパーリングテスト

筋力➡低下　腱反射➡減弱
腱反射➡亢進
病的反射➡出現

問題１－１　胸鎖乳突筋に腫瘤を認める
問題２－２　Ⅰ型（後縦靭帯の穿破はなく靭帯内）
は明確な神経症状と言えず、不定愁訴のため
椎間板症と臨床症状が似てまり鑑別を要する（鑑別困難）
問題３－２　神経根（末梢神経）の問題のため、
反射は減弱する
問題４－４　１は椎間板の変性、２は変形性関節症
３は椎間靭帯の変性
問題５－２　C6 脊髄症にて、C6 筋力/反射減弱、
C7 以降が反射亢進＋病的反射の出現
下肢にも影響がでるため、歩行に問題が生じる